

大潟商工会景況調査報告書

組織番号	082
商工会名	大潟商工会
報告者名	古川 勝巳

1. 調査要領

(1) 調査対象

ア 対象地区 33 商工会地区内小規模事業者
イ 調査企業数 33 事業所 (うち小規模事業者数 32 事業所)
ウ 回答企業数 33 事業所 (うち小規模事業者数 32 事業所)
(回答率 100.0%)

(2) 調査対象期間

平成29年7月～平成29年12月
(調査時点 平成29年12月1日)

(3) 調査方法

経営指導員等による巡回または窓口によるヒアリング調査

(4) 調査対象と回答企業の構成

	調査対象		有効回答	
	企業数	構成比	企業数	構成比
製造業	1	3.0%	1	3.0%
建設業	10	30.3%	10	30.3%
卸・小売業	10	30.3%	10	30.3%
サービス業	12	36.4%	12	36.4%
合計	33	100.0%	33	100.0%

2. 地域内産業全体の景況概要

地区内景況のコメントする

営業努力により活力ある事業所もあるが、全体的には、少子高齢化による人口減少と個人消費の低迷が、以前にも増して色濃く現われ、地域全体で景況感が悪化している。

【後継者の状況】

後継者状況をコメントする

建設業と卸・小売業では、約半数の事業所で後継者が確保されているが、サービス業では、全事業所で後継者がいない状況である。全体としても約30%弱の事業所のみ後継者が確保されていないことから、数年後には事業者数が確実に減少する状況である。

後継者 あり	9事業所	27.3%
後継者 なし	24事業所	72.7%

【売上高】

地区内事業者の売上に関するコメントする

前年同期比及び前期比で、増加した事業者の割合が27%、不変が46%、減少が27%となり過去と比較するとほぼ横ばいと考えられるが、今後の見通しについては、減少がほぼ半数の回答があり、大変厳しいに見通しとなった。

前年同期比

増加	不変	減少
5	16	12

前期比

増加	不変	減少
13	14	6

今後の見通し

増加	不変	減少
2	10	21

【採算】

地区内事業者の採算性についてコメントする

前年同期比及び前期比の過去との比較で、好転が17%、不変が60%、悪化が23%と全体では横ばいと考えられるが、今後の見通しについては、63%の事業所で悪化と回答しており、不透明感が増大している。

前年同期比

好転	不変	悪化
5	20	8

前期比

好転	不変	悪化
6	20	7

今後の見通し

好転	不変	悪化
2	10	21

【仕入単価】

地区内事業者の仕入状況をコメントする

どの項目でも不変と回答した事業所が約80%を占めているが、低下の割合より上昇の割合が大きいことから、仕入単価の上昇が粗利益を引き下げている状況と思われる。

前年同期比

上昇	不変	低下
6	27	0

前期比

上昇	不変	低下
6	26	1

今後の見通し

上昇	不変	低下
7	25	1

【販売（客）単価】

地区内事業者の客単価等をコメントする

過去の前年同期比及び前期比から約74%が不変と回答しているが、低下の割合が25%もある。今後の見通しでも約27%の事業所で低下が見込まれる回答があり、売上高を構成する一要素が低下傾向にあることが伺える。

前年同期比

上昇	不変	低下
2	23	8

前期比

上昇	不変	低下
1	24	8

今後の見通し

上昇	不変	低下
1	23	9

【資金繰り】

地区内事業者の資金繰り状況についてコメントする。

過去の実績で約76%が不変と回答しているが、悪化と回答した事業所が21%もあった。今後の見通しは、約30%が悪化すると回答していることから、資金繰りに苦慮している事業者が増加にあることが伺える。

前年同期比

好転	不変	悪化
1	24	8

前期比

好転	不変	悪化
1	26	6

今後の見通し

好転	不変	悪化
1	22	10

【雇用動向】

地区内の雇用動向をコメントする

ほとんどの事業所で不変と回答している。今後の見通しでは、約18%が減少と回答していることから、建設業と卸・小売業の一部で従業員の不足感があ

前年同期比

増加	不変	減少
1	26	6

前期比

増加	不変	減少
1	27	5

今後の見通し

増加	不変	減少
0	27	6

【景況判断】

地区内の景況判断についてコメントする

全体の約60%の事業所では不変と回答している一方で、悪化が33%を占めている。また、今後の見通しでは、約60%が悪化すると回答していることから、一段と厳しい景況感が伺える。

前年同期比

好転	不変	悪化
2	19	12

前期比

好転	不変	悪化
2	21	10

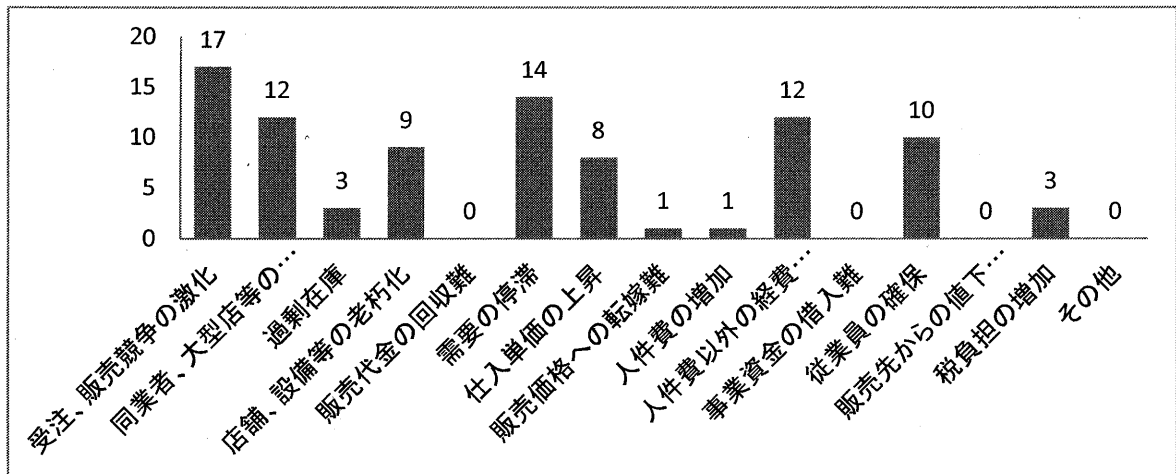
今後の見通し

好転	不変	悪化
1	12	20

【経営上の問題点】

地区内事業者の経営上の問題点についてコメントする

全業種的に「受注・販売競争の激化」と「需要の停滞」が上位を占めている。同業者間の受注の獲得や個人消費の停滞が考えられる。
業種別では、製造業で「受注競争の激化」「過剰在庫」、建設業で「受注競争の激化」「従業員の確保」、卸小売業で「需要の停滞」「従業員の確保」、サービス業で「販売競争の激化」「同業者・大型店等の進出」が多数であった。



3. 産業別景況概要

(1) 製造業

地区内製造業に係る景況状況をコメントする

一部の事業所では、従業員の確保難から受注対応ができない状況であるが、全体としてはほぼ全項目で「悪化」と回答していることから、一段と厳しい状況である。特に受注の先行き不透明感からより一層厳しさを増している。

(2) 建設業

地区内建設業に係る景況状況をコメントする

地区内の公共工事の減少に民間設備投資等の減少が加わり、以前より厳しさに拍車がかかっている。また、売上高や採算についても先行きが見えてこない状況である。

(3) 卸・小売業

地区内卸、小売業に係る景況状況をコメントする

一部の事業所で売上高や採算で増加していると回答していることから、自社の営業努力が業績を上げている事業所もあるが、全体的には消費の低迷による不況感がある。

(4) サービス業

地区内サービス業等に係る景況状況をコメントする

地区内に一番多い業種であることから景況を大きく左右する。中には確実に利益を確保している事業所もあるが、客数も客単価も減少傾向にあり売上確保が困難な状況である。

(様式⑤)

No.	
-----	--

景況調査ヒアリングシート (平成29年度)

調査対象期間 平成29年7月～12月

(調査時点 平成29年12月1日)

商工会名	商工会	担当職員名	
企業の概要	業種	1:製造 2:建設 3:卸・小売業 4:サービス他	
	従業員数	1:0人 2:1人～2人 3:3人～5人 4:6人～20人 5:20人超	
	企業区分	1:小規模事業者 2:小規模事業者以外	
	後継者の有無	1:有 2:無	

(1) 貴社の状況についてお答えください。(該当する番号に○を付してください。)

	前年同期(H28年7～12月)と比較して	前期(H29年1月～6月)と比較して	今期(H29年7～12月)と比較した来期(H30年1～6月)の見通し
売上	1.増加 2.不変 3.減少	1.増加 2.不変 3.減少	1.増加 2.不変 3.減少
採算(経常利益)	1.好転 2.不変 3.悪化	1.好転 2.不変 3.悪化	1.好転 2.不変 3.悪化
仕入単価	1.上昇 2.不変 3.低下	1.上昇 2.不変 3.低下	1.上昇 2.不変 3.低下
販売(客)単価	1.上昇 2.不変 3.低下	1.上昇 2.不変 3.低下	1.上昇 2.不変 3.低下
資金繰り	1.好転 2.不変 3.悪化	1.好転 2.不変 3.悪化	1.好転 2.不変 3.悪化
雇用動向	1.増加 2.不変 3.減少	1.増加 2.不変 3.減少	1.増加 2.不変 3.減少
景況判断	1.好転 2.不変 3.悪化	1.好転 2.不変 3.悪化	1.好転 2.不変 3.悪化

(2) 貴社の経営上の問題点(下記より上位3つまでを選び、○を付してください。)

- ①受注、販売競争の激化
- ②同業者、大型店等の進出
- ③過剰在庫
- ④店舗、設備等の老朽化
- ⑤販売代金の回収難
- ⑥需要の停滞
- ⑦仕入単価の上昇
- ⑧販売価格への転嫁難
- ⑨人件費の増加
- ⑩人件費以外の経費増加
- ⑪事業資金の借入難
- ⑫従業員の確保
- ⑬販売先からの値下げ要請
- ⑭税負担の増加
- ⑮その他()

(3) 今後の事業・経営において強化したい点(設備投資・販路開拓等)

--